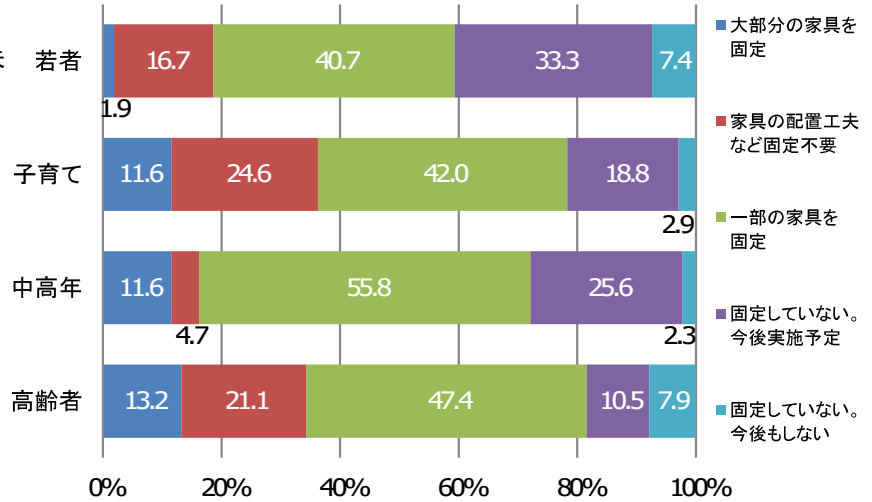
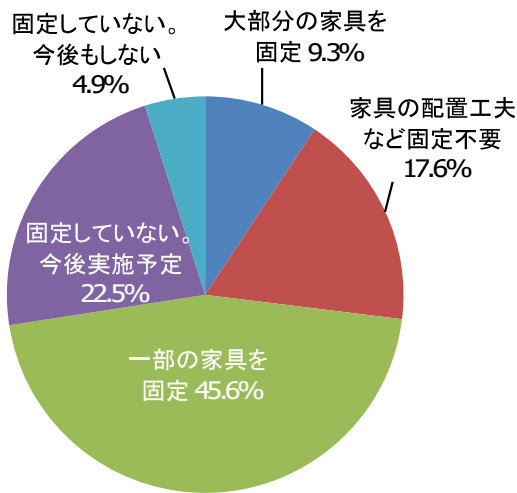


# <災害への備えについて>

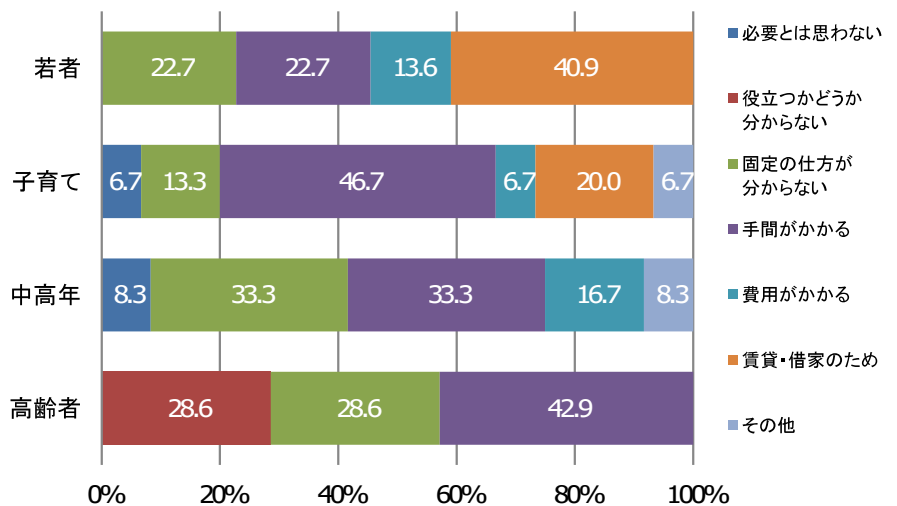
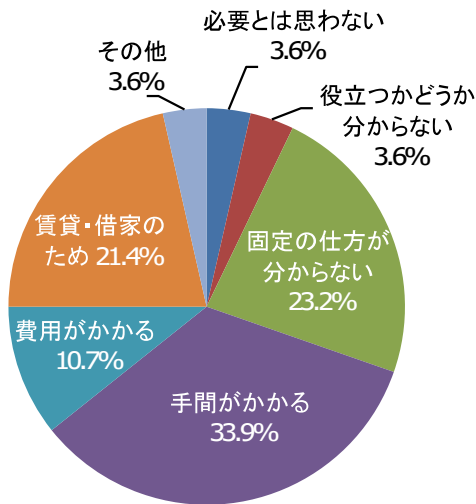
## ■問1 家具の転倒防止対策の実施 (n=204)



- 家具の転倒防止対策の実施については、『固定している』（「大部分の家具を固定」、「家具の配置工夫など固定不要」と「一部の家具を固定」の合計）が約7割となっています。
- 世代別にみると、若者の約6割、子育て・高齢者の約8割、中高年の約7割が『固定している』と回答しています。

## ■問2 家具を固定しない理由 (n=56)

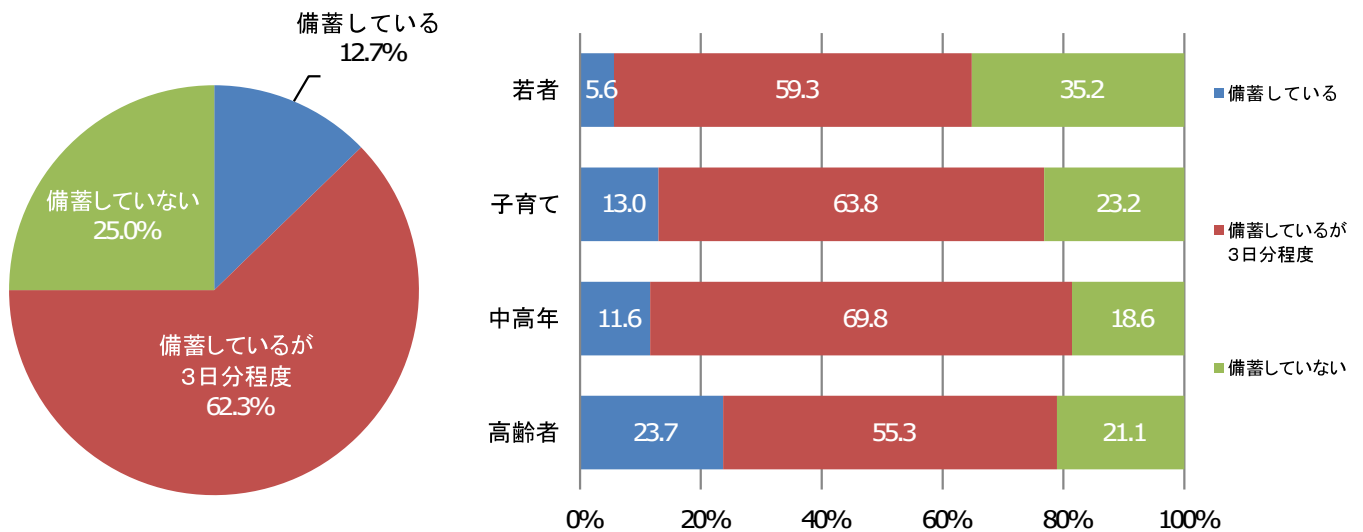
(問1で「4 固定していない。今後、実施しようと思っている」「5 固定していない。今後実施しようと思わない」と回答した方)



- 家具を固定しない理由については、「手間がかかる」が約3割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者では「賃貸・借家のため」が、子育て・中高年・高齢者では「手間がかかる」が最も多い回答となっています(中高年では「固定の仕方が分からない」も同率)。

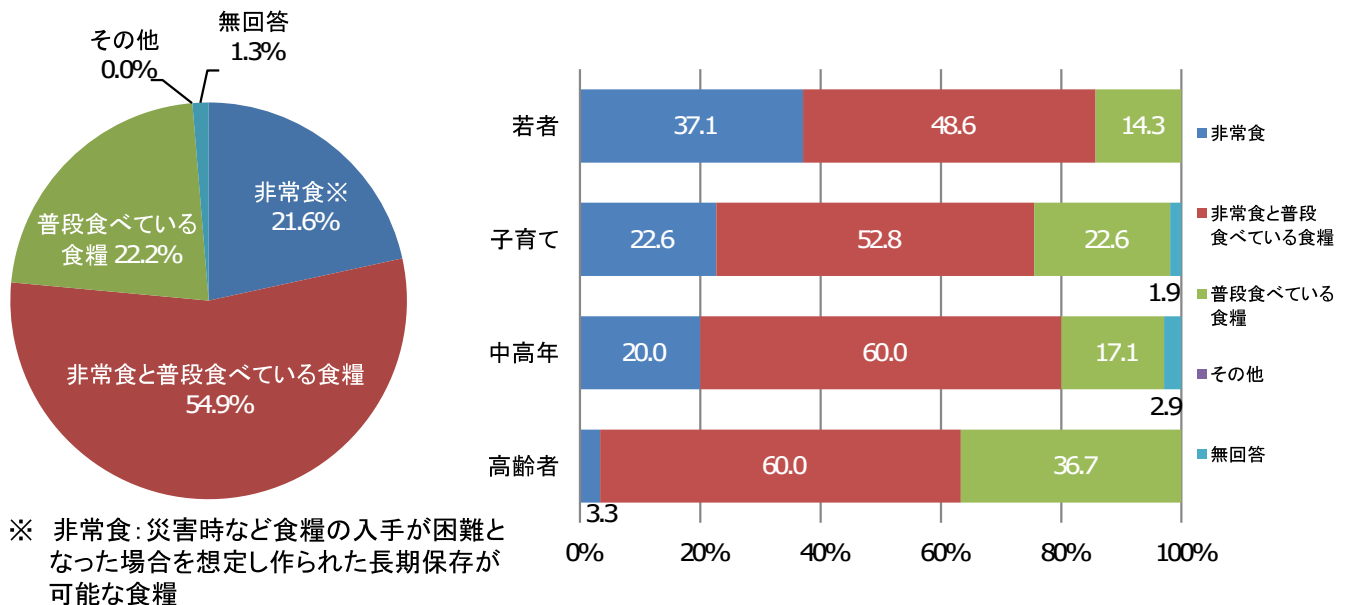
### 問3 災害の発生に備え7日以上食糧を備蓄※しているか (n=204)

※ 冷蔵・冷凍庫に保有している食品やレトルト食品、缶詰などの日頃の買い置き食品も含めて回答



- 災害の発生に備え7日以上食糧を備蓄しているかについては、「備蓄しているが3日分程度」が約6割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「備蓄しているが3日分程度」が最も多い回答となっています。

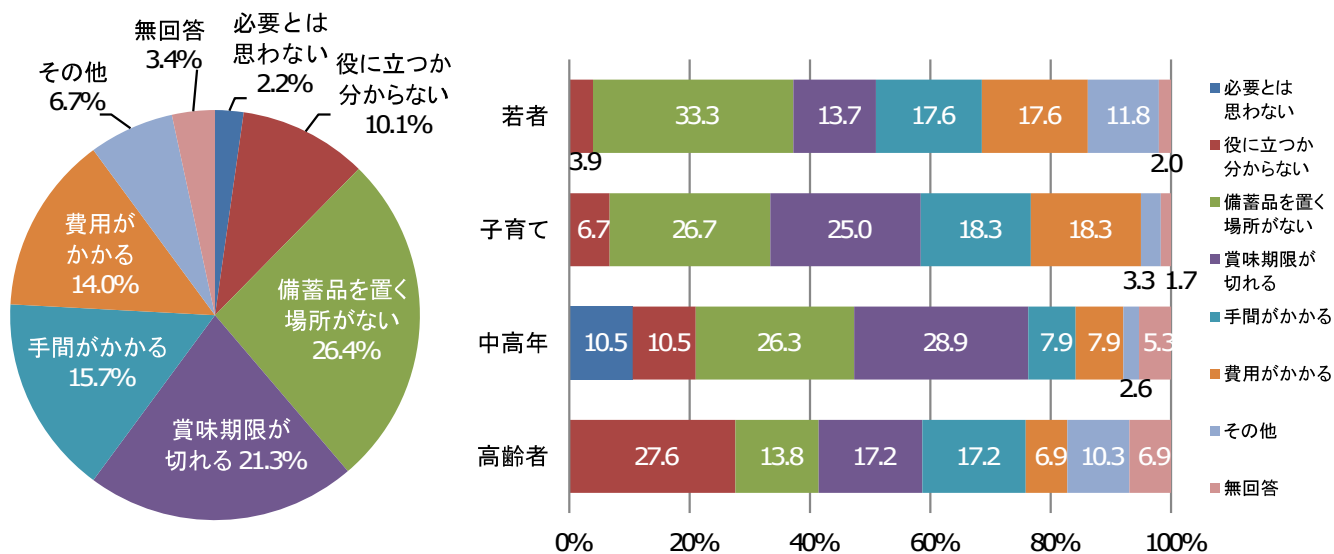
### 問4 備蓄している食糧 (n=153) (問3で「1 備蓄している」「2 備蓄しているが3日分程度」と回答した方)



※ 非常食: 災害時など食糧の入手が困難となった場合を想定し作られた長期保存が可能な食糧

- 備蓄している食糧については、「非常食と普段食べている食糧」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「非常食と普段食べている食糧」が最も多い回答となっています。

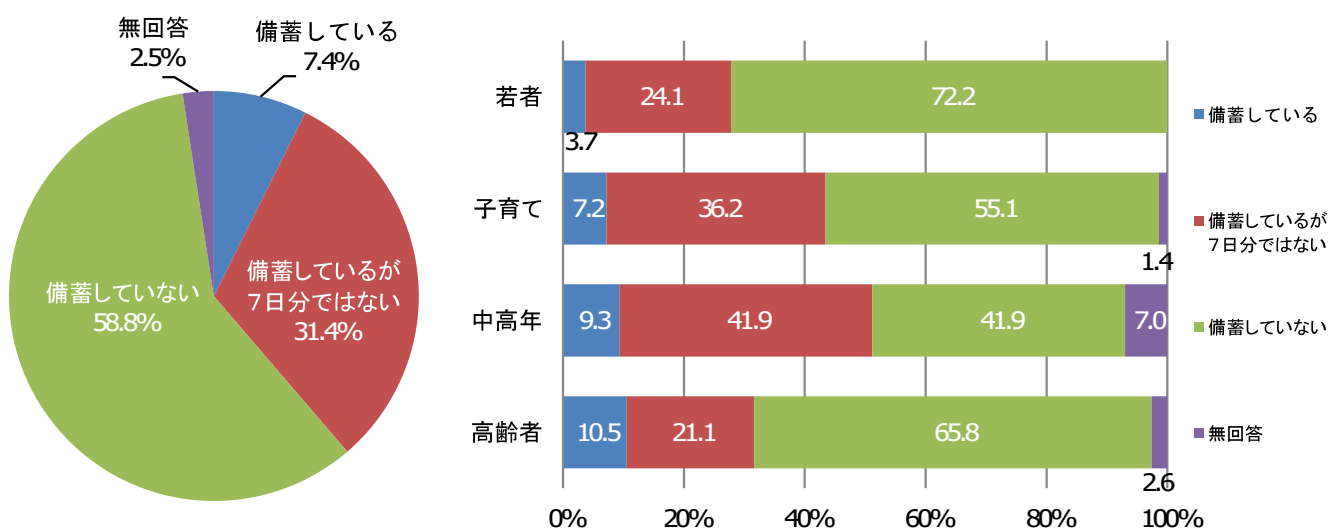
■問5 7日以上の食糧を備蓄しない理由 (n=178)  
 (問3で「2 備蓄しているが3日分程度」「3 備蓄していない」と回答した方)



- 7日以上の食糧を備蓄しない理由については、「備蓄品を置く場所がない」が約3割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育てでは「備蓄品を置く場所がない」が、中高年では「賞味期限が切れる」が、高齢者では「役に立つかわからない」が最も多い回答となっています。

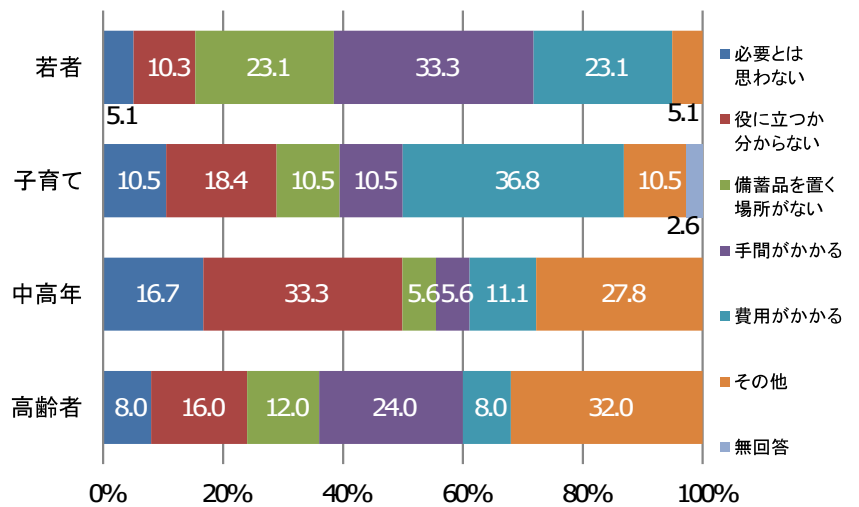
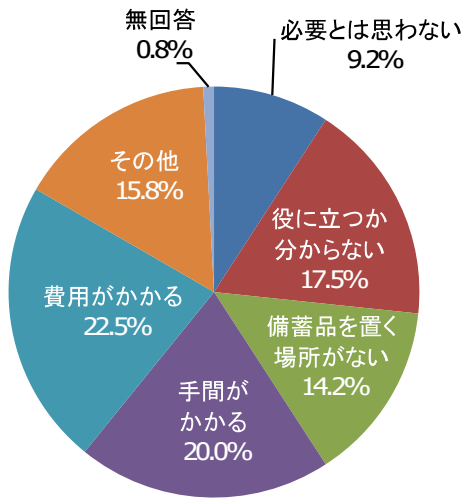
■問6 災害の発生に備え7日以上「携帯トイレ(便袋)※」を備蓄しているか (n=204)

※ 携帯トイレ(便袋): 災害用トイレのうち、既存の洋式トイレに被せて用いる袋で、袋の中に吸収シートが入っているものや、袋と凝固剤を併用するものなど、さまざまな製品がある。  
 (1日分: 1人5回分×家族の人数分)



- 災害の発生に備え7日以上の「携帯トイレ(便袋)」を備蓄しているかについては、「備蓄していない」が約6割となっています。
- 世代別にみると、若者・高齢者の約7割、子育ての約6割、中高年の約4割が「備蓄していない」と回答しています。

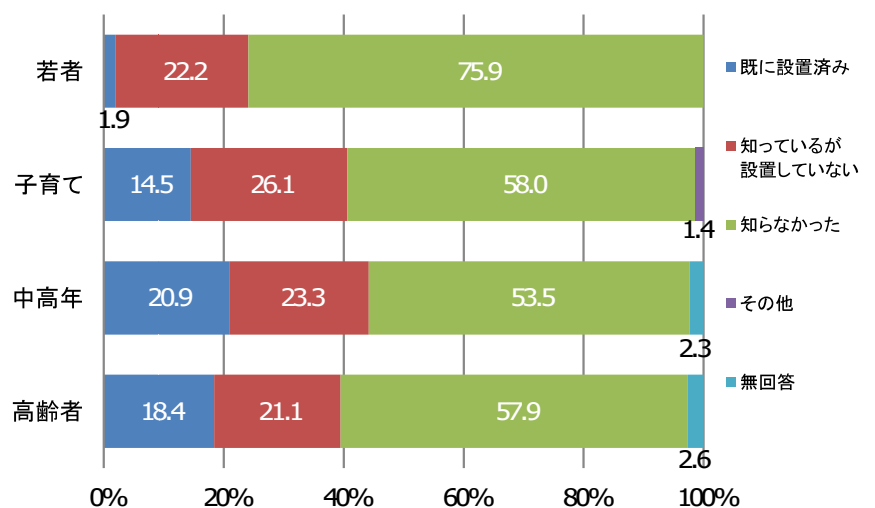
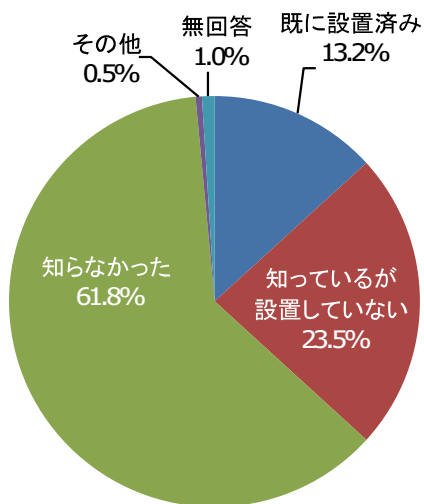
■ 問7 「携帯トイレ(便袋)」を備蓄していない理由 (n=120)  
 (問6で「3 備蓄していない」と回答した方)



- 「携帯トイレ(便袋)」を備蓄していない理由については、「費用がかかる」が約2割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、「その他」の回答を除き、若者・高齢者では「手間がかかる」が、子育てでは「費用がかかる」が、中高年では「役に立つかわからない」が最も多い回答となっています。

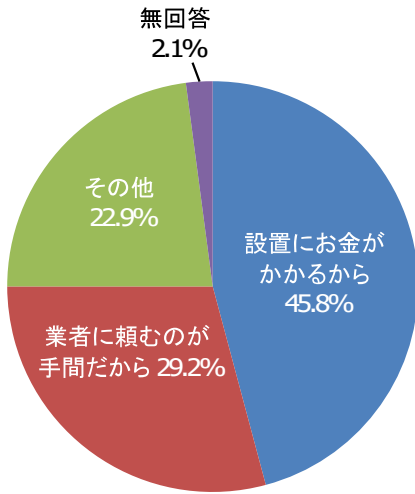
■ 問8 「感震ブレーカー※」の認知度 (n=204)

※ 感震ブレーカー: 地震発生時に設定値以上の揺れを感知したとき、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に、電気火災を防止する有効な手段となる。



- 「感震ブレーカー」の認知度については、「知らなかった」が約6割となっています。
- 世代別にみると、若者の約8割、子育て・高齢者の約6割、中高年の約5割が「知らなかった」と回答しています。

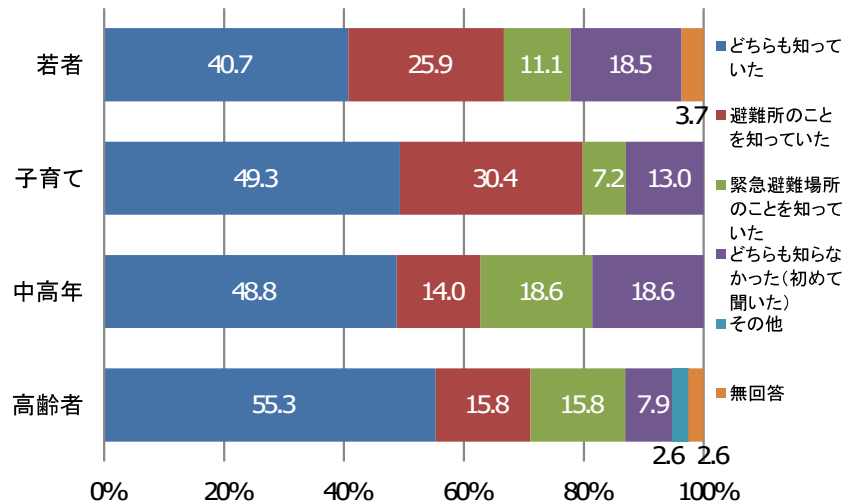
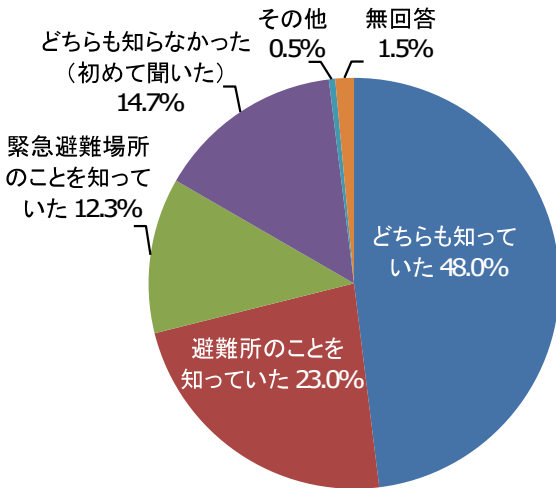
■ 問9 「感震ブレーカー」を知っているが設置していない理由 (n=48)  
 (問8で「2 知っているが設置していない」と回答した方)



■ 「感震ブレーカー」を知っているが設置していない理由については、「設置にお金がかかるから」が約5割と最も多い回答となっています。

■ 問10 「避難所※1」と「緊急避難場所※2」の認知度 (n=204)

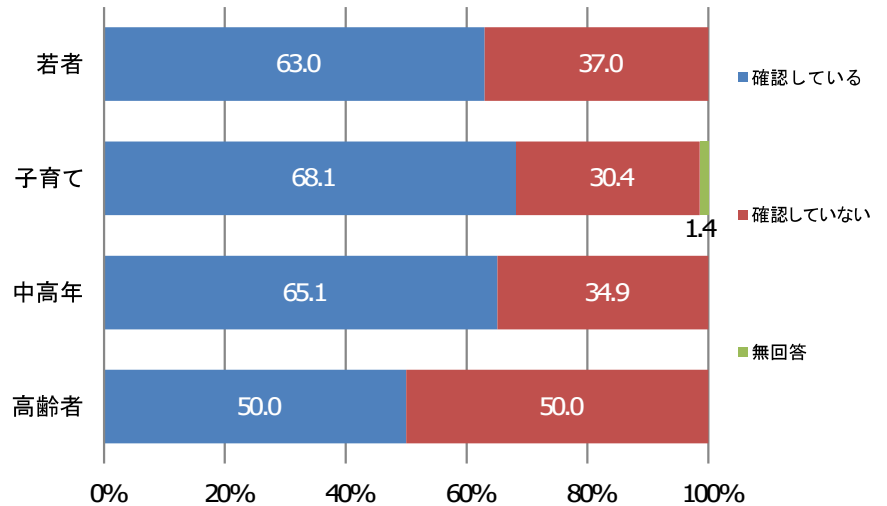
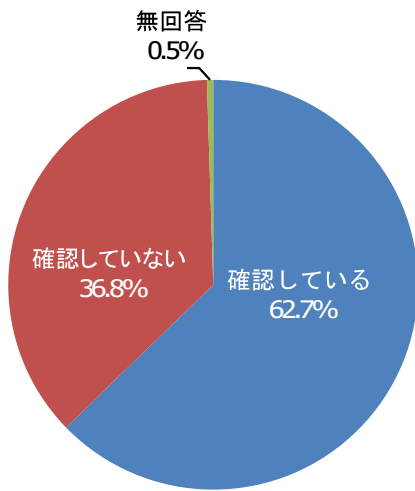
※1 避難所: 自宅の倒壊などにより生活が困難となり、一定期間滞在して避難生活を送る場所。  
 ※2 緊急避難場所: 災害が起きた場合や起きそうな場合に、命を守るためにまず一時的に逃げる場所。



■ 「避難所」と「緊急避難場所」の認知度については、「どちらも知っていた」が約5割と最も多い回答となっています。  
 ■ 世代別にみても、全ての世代で「どちらも知っていた」が最も多い回答となっています。

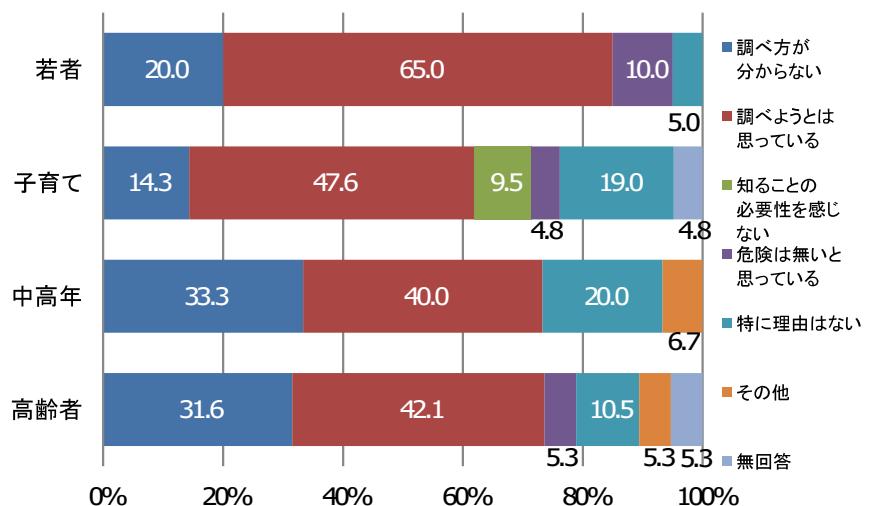
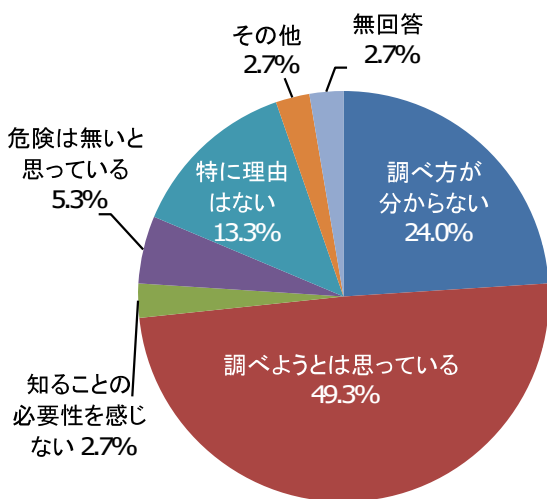
## ■問11 住んでいる地域に想定されている災害の危険をハザードマップで確認※しているか (n=204)

※ 浜松市ホームページ 防災>防災・災害情報>ハザードマップ(浜松市防災マップ・津波浸水深マップ)で調べることができる



- 住んでいる地域に想定されている災害の危険をハザードマップで確認しているかについては、「確認している」が約6割となっています。
- 世代別にみると、若者の約6割、子育て・中高年の約7割、高齢者の5割が「確認している」と回答しています。

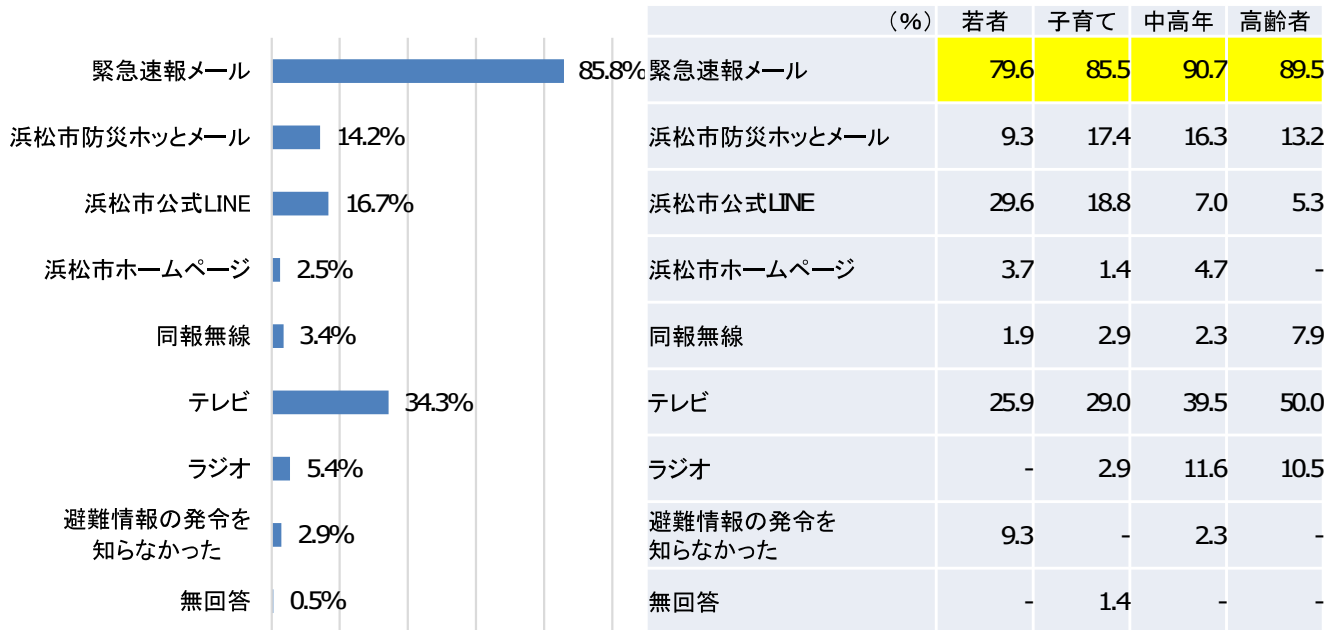
## ■問12 ハザードマップを確認していない理由 (問11で「2 確認していない」と回答した方) (n=75)



- ハザードマップを確認していない理由については、「調べようとは思っている」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「調べようとは思っている」が最も多い回答となっています。

### 問13 2023年6月2日の豪雨の際の避難情報発令をどのような方法で知ったか

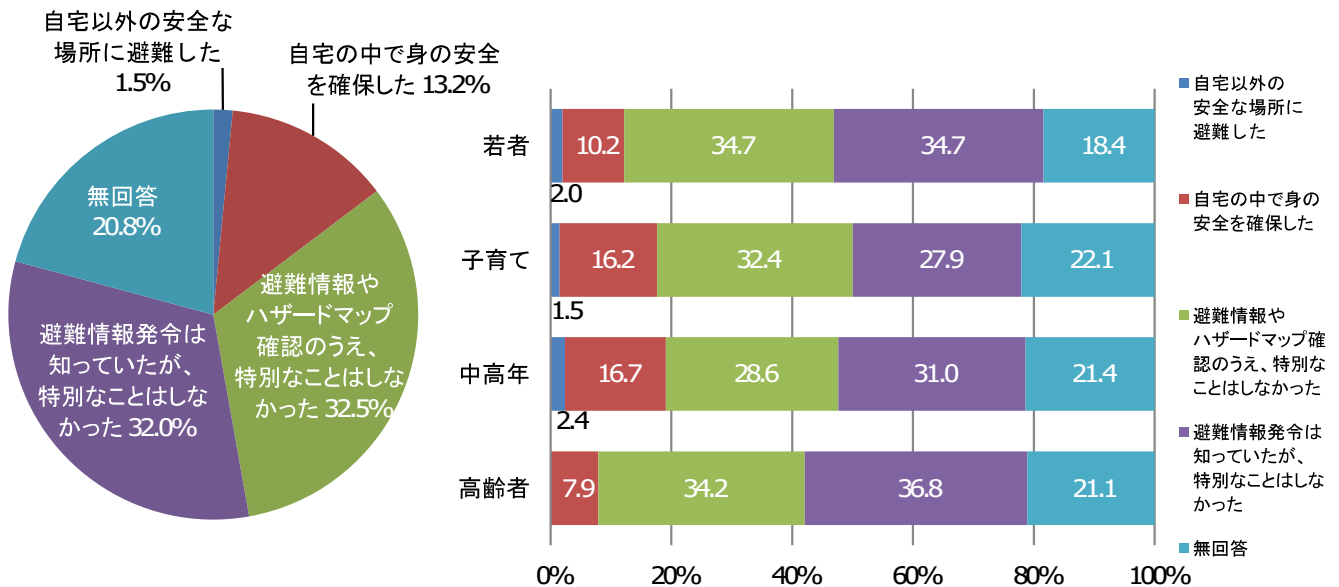
(n=204 複数回答)



- 2023年6月2日の豪雨の際の避難情報発令をどのような方法で知ったかについては、「緊急速報メール」が約9割となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「緊急速報メール」が最も多い回答となっています。

### 問14 避難情報を受け取った後に実際にとった行動 (n=197)

(問13で「8 避難情報が発令されていることを知らなかった」以外の回答をした方)



- 避難情報を受け取った後に実際にとった行動については、『特別なことはしなかった』(「避難情報やハザードマップ確認のうえ、特別なことはしなかった」と「避難情報発令は知っていたが、特別なことはしなかった」の合計)が約6割となっています。
- 世代別にみると、若者・高齢者の約7割、子育て・中高年の約6割が『特別なことはしなかった』と回答しています。